



第53期 中間事業のご報告

平成20年4月1日～平成20年9月30日

C O N T E N T S

業績ハイライト	1
ごあいさつ	2
特集 東和の強み	3
中期経営計画	5
連結財務諸表(要約)	7
会社の概況と株式の状況	9
株主メモ	10



東和薬品株式会社

当第2四半期(連結)の概況

当社グループは、適正価格販売を維持し、高脂血症治療剤マイバスタン、アレルギー性疾患治療剤エルピナン、消化性潰瘍用剤ファモスタジンなどの主力品目の販売拡大に努める一方、7月には、アムロジピン錠「トーワ」、およびアムロジピンOD錠「トーワ」を発売いたしました。

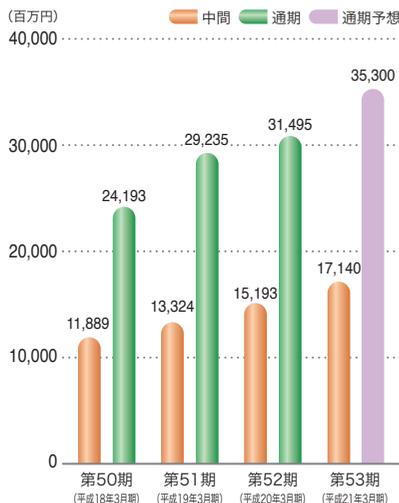
この結果、当第2四半期(6か月)の当社グループの売上高は、171億4千万円(前年同期比12.8%増)となりました。一方、積極採用に伴う人件費の増加や、試験研究費の増加などで販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益は26億3千7百万円(前年同期比7.0%増)となりました。また平成20年3月末から3円38銭の円安になったことに伴い、1億4千2百万円のスワップ評価益を計上したこと、および有価証券評価損1億1千4百万円を計上したことなどにより、経常利益は27億8千万円(前年同期比11.2%増)となりました。特別損益については、退職給付制度終了益2億3千1百万円を計上したこと、および投資有価証券評価損2億1百万円を計上したことなどにより、第2四半期純利益は、16億6千7百万円(前年同期比17.2%増)となりました。

通期の見通し

当第2四半期の連結売上高は当初計画をわずかに上回りましたが、4月に新たに取引を開始した保険薬局向けの一時的な売上増加がその要因であり、5月以降はほぼ当初計画どおり推移しております。第3四半期以降につきましても、当初計画どおりの売上推移を見込んでおり、通期の売上高予想は第2四半期の当初計画からの上ぶれ分を修正いたしました。

一方、費用につきましては、工場稼働率の向上により、当初計画よりも原価率が低下傾向にあることから、当第2四半期の経営成績を踏まえ、営業利益、経常利益、当期純利益を前回公表数値からそれぞれ修正しております。

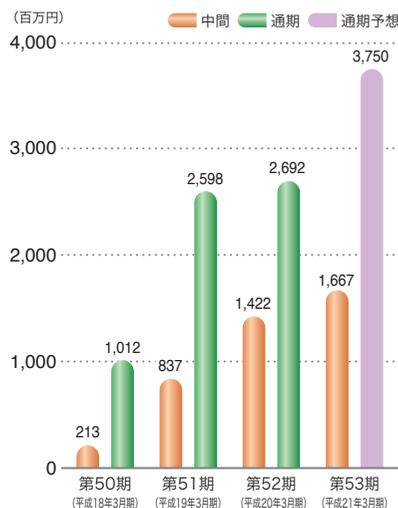
売上高(連結)



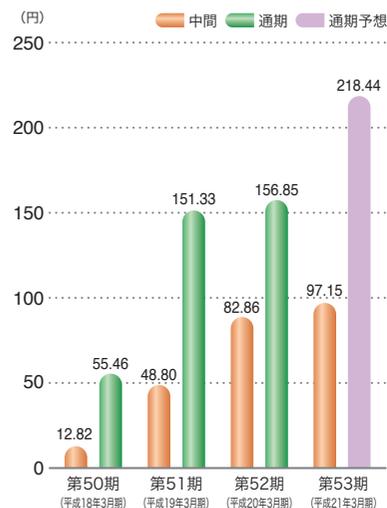
経常利益(連結)



四半期(中間・当期)純利益(連結)



一株当たり四半期(中間・当期)純利益(連結)





代表取締役社長 吉田 逸郎

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第53期中間事業のご報告（平成20年4月1日から平成20年9月30日）をお手元にお届けいたします。

「平成24年度までに、後発医薬品の数量シェアを30%（現状から倍増）以上にする」という政府目標に向けて、本年4月に、標準処方せん様式の再変更や後発医薬品調剤体制加算の新設などの後発医薬品使用促進のための環境整備が行われました。このような中、当社グループは、需要拡大が見込まれる保険薬局市場で積極的な営業活動を展開した結果、保険薬局の取引軒数が拡大し、同市場での売上も大きく増加いたしました。

本年7月には、アムロジピン錠「トーワ」、およびアムロジピンOD錠「トーワ」を発売いたしました。本剤の先発医薬品は、日本で現在最大の売上の高血圧症治療剤であり、その後発医薬品が発売されたことは医薬品市場でも特に注目を集めております。アムロジピンのジェネリック医薬品を34社が新発売する中で、当社のみがOD錠（水なしで服用できる口腔内崩壊錠）も併せて発売いたしました。当社が独自に開発した「RACTAB」技術を駆使した本OD錠は、服用感もよく、医療関係者や患者さんからご好評をいただいております。発売当初から売上も順調に推移しております。当社は、このような医療現場で使いやすく、患者さんが服用しやすい価値ある製品づくりを推進し、存在感を高めていきたいと考えております。

いま当社では、ジェネリック医薬品の本格的な普及に備え、ジェネリック医薬品企業の中で信頼される会社として認知されるために、「信頼性の確立」を最も重要な経営課題と位置付け、各種の取り組みを行っています。その施策のひとつとして、信頼される情報提供を全社で推進するため、「医薬情報部」を新設いたしました。この他にも、品質向上、安定供給のための地道な努力を積み重ねております。

利益配分にあたっては、株主の皆様への安定的な配当と、今後一層の企業発展に備える内部留保の充実の両立を図ることを基本とし、配当性向30%程度を目標としたいと考えておりますが、業績がほぼ当初計画どおり堅調に推移したことを踏まえ、期初計画通り中間配当は1株当たり22円50銭とさせていただきます。

内部留保金につきましては、経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力の向上・効率化のための設備投資、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきますと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

付加価値で、患者さん・医療現場の 悩みを解決する製剤技術力

医療現場でニーズの高い薬の剤型に、水なしで服用できるOD錠（口腔内崩壊錠）があります。本年、7月追補収載の目玉として登場した持続性Ca拮抗剤「アムロジピン」（高血圧症・狭心症治療剤）のジェネリック医薬品（以下、GE）は、実に34社70品目にのぼりましたが、OD錠を発売したのは東和薬品のみでした。この時期に製品化に成功した当社の技術力と製剤開発の考え方を、アムロジピンOD錠の開発を担当した製剤研究部課長 奥田豊へのインタビューを通じてご紹介します。



Q 先発品にOD錠があり、それに対してGEでもOD錠を作ったのですか？

A そうではありません。アムロジピンのOD錠開発に着手した時点では、先発品のOD錠はありませんでした。OD錠に着目したのは、患者さんニーズや服薬コンプライアンス*の向上、さらに臨床ニーズを考えてのことです。

患者さんには、高齢や合併症などで嚥下力（飲み下す力）が低下したり、水分摂取を制限されている場合もあります。また、規則正しい服用が必要とされる薬にもかかわらず、多忙などで飲み忘れ、病状を悪化させてしまうケースがあるほか、人前での服用を避けたい方もいらっしゃいます。そうした患者さんの服薬コンプライアンスを向上できると考え、どこでも水なしで飲めるOD錠の開発を進めることにしたのです。

今回のアムロジピンOD錠は先発品OD錠のGEではなく、普通錠の剤型追加品として開発したものです。

*服薬コンプライアンス：処方された薬剤を指示に従って服用すること。

Q その後、先発品のOD錠が発売され、他のGEメーカーもOD錠開発に乗り出したようですが、なぜ東和薬品だけが7月に収載できたのですか？

A 最たる要因は、主力製品である「ファモスタジンD錠」「ボグリボースOD錠」に共通するOD化の基盤技術があったためです。当社で確立した汎用性の高いOD化技術の特許出願しており、今回発売のアムロジピンOD錠にも適用いたしました。

さらに、このOD化技術により、新たな設備を要することなく既存の装置で製造できることも、短期間での製品化を可能にした大きなポイントです。

この優れた技術を医療現場に広く伝えたいと考え、「RACTAB: Rapid and Comfortable Tablets / 楽タブ」とネーミングし、現在、商標登録申請中です。「楽タブ」には“患者さんが楽に服用できる”、“調剤の現場で楽に扱える”、そして“製造も楽で、安定供給できる”との思いを込めています。



東和薬品 口腔内崩壊錠の製剤設計
2種類の粒子を圧縮成型した錠剤です!
 この錠剤は、アムロジピンOD錠「トーワ」 ファメスタジンOD錠に用いています。

製剤マスキング粒子
 (主成分含有)

速崩壊性粒子
 (糖アルコール・崩壊剤含有)

この錠剤をマスク、速やかに崩壊し、ザラつきません。

アムロジピンOD錠製剤設計の特徴

アムロジピンOD錠製剤設計の特徴

Q 患者さんが楽に服用できるよう工夫した点は?

A OD錠は、口腔内ですみやかに崩壊するので、味や口当たりの服用感が重要です。マスキング技術によって薬剤の苦さを軽減させ、さらにクセがなく飲みやすいメントール系の味としています。服用感については、ザラつき感のない100 μ m以下の粒子径に整えて滑らかな口当たりになるよう設計しています。

また、PTP包装は医療過誤防止のため、品名や含量のサイズ表記の配置、配色に気を配り、文字もユニバーサルデザインフォントを採用するなどして、品名や含量が識別しやすいデザインにしています。

Q 調剤の現場で楽に扱えるよう凝らした技術は?

A 医療現場では、自動分包機での調剤可能な錠剤硬度が望まれます。しかし、従来OD錠には口の中で崩壊しやすくするためには硬度を上げられないという問題がありました。当社では、優れた崩壊性と高い錠剤硬度という背反する条件を満たす技術を追求。

これにより、自動分包機による一包調剤が可能となり、調剤時の扱いやすさを高めています。

Q 今後の製剤開発方針は?

A 先発薬と同じ有効成分を用いた製剤でありながら「先発品よりも付加価値があり、先発品よりも安いGE」を目指し、製剤工夫により扱いやすく、患者さん、医療現場のニーズに応えられる製品を今後も創出していきます。さらに、こうした努力による製品のライフサイクルマネジメントも私たちの役割であると考えています。



ユニバーサルデザインフォントを採用したPTP包装

2011年3月期の目標達成に向けて順調にスタート

本年度、2008年4月より「3カ年中期経営計画」をスタートさせ、2011年3月期に売上高412億円、営業利益85億円の達成を目指し、3つの主要課題を掲げ、推進しています。

信頼性の確立

情報提供の一元化

現在複数の部署で持っている情報を一元化し、顧客が必要とする情報を迅速かつ的確に届けるシステムの構築を行い、「医薬情報部」を新設しました。

自主品質基準による試験データの取り揃え

厚労省からのアクションプログラム内容に加え、自主的に将来要求されると見込まれる品質基準まで取り揃える「製品信頼性向上支援プロジェクト」をスタートし、データの取り揃えを推進しています。

安定供給の確保

確かな原薬の調達と綿密な生産計画に基づく製造により、自社製品の安定供給を行っています。



診療所・中小病院・保険薬局市場の強化

当社が強みとする診療所・中小病院・保険薬局市場のさらなる強化・拡大

全国約10万件の開業医市場に対し、当社お取引先は約3万件。さらなる拡大を目指しMR400人体制で挑んでいます。

大病院市場の開拓

DPC(包括医療)準備病院・自治体病院を中心に市場開拓を強化しています。

代理店・営業網の整備

直営営業所や代理店の出張所を増設するなど、配達網の充実を図っています。





製剤技術・製造技術の向上

製品改良

医療現場で扱いやすく、患者さんが服用しやすい製剤へと改良する研究に取り組み、付加価値の高い製品の開発を続けています。

製造コストを意識した製剤設計

新たな設備を要することなく既存の工場設備で製造できるよう、コストを意識した高度な製剤設計を追求しています。

各工場の特徴づけ

「信頼のおける工場で、信頼のおける製品を」をモットーに、工場ごとに製造品目を分担するなど、岡山、大阪、山形の3工場を効率よく機能させ、安定供給につなげていきます。



岡山工場



大阪工場



山形工場

TOPICS

医師・薬剤師への啓発活動

国が目標とするGE薬の数量シェア30%以上の実現には、私たちGEメーカーの努力はもちろんですが、医師、薬剤師のGEに関する正しい理解も課題となっています。当社では、全国の医師、薬剤師の学会などでセミナーを開催し、安心して使えるGEの啓発活動を展開しています。



第18回日本医療薬学会でのスイーツセミナー

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (平成20年 9月30日現在)	参考資料	
		前期 (平成20年3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	1,282	757	525
受取手形及び売掛金	12,553	12,342	211
有価証券	386	1,414	△ 1,027
たな卸資産	9,923	9,366	557
その他	1,642	1,412	230
貸倒引当金	△ 19	△ 115	96
流動資産合計	25,770	25,177	593
固定資産			
建物及び構築物	7,667	6,243	1,423
土地	5,960	5,977	△ 17
その他	3,187	3,580	△ 392
有形固定資産合計	16,815	15,802	1,013
無形固定資産	280	310	△ 29
投資有価証券	2,456	2,846	△ 390
その他	885	965	△ 79
貸倒引当金	△ 34	△ 35	0
投資その他の資産合計	3,307	3,777	△ 470
固定資産合計	20,403	19,889	514
資産合計	46,174	45,066	1,107

たな卸資産

保険薬局市場における売上拡大や安定供給を確保するために、在庫量が増加しました。

建物及び構築物

岡山工場の改修工事などの大型の設備更新を実施したことにより増加しました。

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (平成20年 9月30日現在)	参考資料	
		前期 (平成20年3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金	4,086	4,479	△ 392
未払法人税等	1,291	1,175	115
引当金	49	79	△ 29
その他	3,403	3,304	98
流動負債合計	8,831	9,038	△ 206
固定負債			
引当金	143	250	△ 106
その他	810	839	△ 29
固定負債合計	954	1,090	△ 135
負債合計	9,785	10,128	△ 342
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	23,790	22,509	1,281
自己株式	△ 9	△ 8	△ 0
株主資本合計	36,370	35,089	1,281
その他有価証券評価差額金	18	△ 151	169
純資産合計	36,388	34,938	1,450
負債純資産合計	46,174	45,066	1,107

投資有価証券

金融商品会計基準に基づく減損処理を実施したことにより、201百万円の評価損を計上しました。

工場閉鎖損失

大分工場の閉鎖を決定したことに伴い、91百万円の工場閉鎖損失を計上しました。

(注) ●記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	参考資料	
		前中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	増減
売上高	17,140	15,193	1,946
売上原価	8,876	8,080	796
売上総利益	8,263	7,113	1,149
販売費及び一般管理費	5,625	4,647	978
営業利益	2,637	2,466	171
営業外収益	288	214	73
営業外費用	145	179	△ 33
経常利益	2,780	2,501	279
特別利益	330	13	316
特別損失	309	177	131
税金等調整前四半期(中間)純利益	2,801	2,337	464
法人税等	1,134	914	219
四半期(中間)純利益	1,667	1,422	245

売上高／売上原価／売上総利益

保険薬局市場で積極的な営業活動を展開したことや新製品の投入などにより、売上高は前年同期に比べ、1,946百万円(+12.8%)の増加となりました。

売上原価は796百万円(+9.9%)増加し、売上総利益は1,149百万円(+16.2%)増加しました。

販売費及び一般管理費

研究開発費は、製品開発のための試験品目が増加したことなどにより、1,044百万円となり、前年同期に比べ260百万円増加しました。

また、新卒及び中途採用者の積極採用により給料等は303百万円の増加、テレビCM放映の増加により広告宣伝費は74百万円増加したことなどにより、販管費は978百万円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	参考資料	
		前中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	増減
税金等調整前四半期(中間)純利益	2,801	2,337	464
減価償却費	875	670	205
引当金の増減額(△は減少)	△ 232	△ 43	△ 189
売上債権の増減額(△は増加)	△ 211	607	△ 819
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 567	357	△ 924
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 392	△ 891	499
その他	△ 67	△ 5	△ 62
小計	2,206	3,033	△ 826
利息及び配当金の受取額	48	118	△ 69
利息の支払額	△ 4	△ 8	4
法人税等の支払額	△ 1,000	△ 1,298	297
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,249	1,844	△ 595
有形固定資産の取得による支出	△ 1,675	△ 461	△ 1,213
その他	281	688	△ 406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,393	227	△ 1,620
配当金の支払額	△ 385	△ 386	0
その他	△ 0	△ 0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 386	△ 386	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	21	7
現金及び現金同等物の増減額	△ 501	1,706	△ 2,208
現金及び現金同等物の期首残高	2,171	1,196	974
現金及び現金同等物の期末残高	1,669	2,903	△ 1,233

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が増加しましたが、売上高増加に伴い、売上債権およびたな卸資産が増加したためです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

岡山工場の改修工事などの大型の設備更新を実施したためです。

(注)●記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。

会社の概況と株式の状況

(平成20年9月30日現在)

会社概要

社名 東和薬品株式会社
本社 〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11
TEL(06)6900-9100(代表)
代表者 代表取締役社長 吉田 逸郎
創業 昭和26年6月
設立 昭和32年4月
上場取引所 東京証券取引所市場第一部(証券コード:4553)
資本金 47億1,770万円
事業内容 医療用医薬品の製造・販売
自社製品 約455品目
従業員数 1,167名
取引銀行 三菱東京UFJ銀行 門真支店 みずほ銀行 守口支店
三菱UFJ信託銀行 大阪支店
研究所 中央研究所 製剤研究所
工場 山形工場 大阪工場 岡山工場
子会社 ジェイドルフ製薬株式会社(医薬品製造販売)

取締役及び監査役

(平成20年10月1日現在)

代表取締役社長 吉田 逸郎

常務取締役 佐伯 昌
生産本部署

常務取締役 肥後 正
信頼性保証本部長兼薬制部長

取締役 藤本 正義
営業本部長

取締役 大澤 孝
研究開発本部長

取締役 薮下 啓二
管理本部長兼総務部長

取締役 西川 義明
企画本部長兼経営企画部長

常勤監査役 皆木 武久

監査役 山田啓三郎

監査役 森野 実彦^{*}
弁護士

監査役 辻 弘^{*}
税理士

^{*}は会社法 第2条 第16号に定める
社外監査役です。

株式の状況

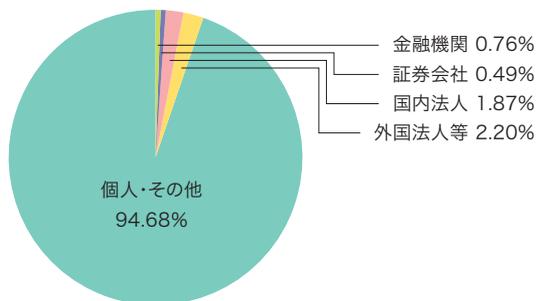
発行可能株式総数……………49,000,000株
発行済株式総数……………17,172,000株
1単元の株式数……………100株
株主数……………5,360名

大株主一覧

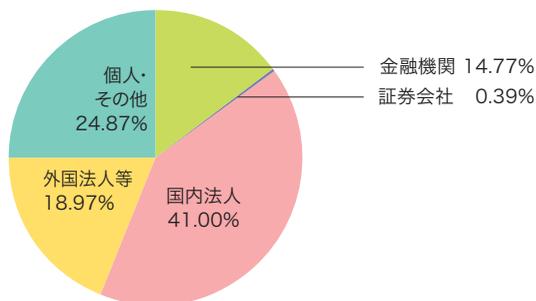
株主名	持株数	出資比率
(有)吉田事務所	3,000千株	17.5%
(有)吉田興産	2,000	11.7
(有)吉田企画	1,527	8.9
吉田 逸郎	1,016	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	953	5.6
ゴールドマンサックスアンドカンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	452	2.6
東和薬品共栄会	348	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	324	1.9
インベスターズバンク (常任代理人 スタンダードチャータード銀行)	283	1.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	277	1.6

株主分布状況

株主数比率



株式数比率



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
公告掲載方法	電子公告によって行います。 http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話:0120-094-777(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

◎株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号 TEL:06-6900-9100(代表)
<http://www.towayakuhin.co.jp/>

見通しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。



再生紙(古紙配合率100%)、
大豆油インキを使用しています。